目次

ツール バーの使用 1
ツール バーの使用: イントロダクション 1
ファイル オペレーション ツール バー 2
グラフィックスモードツールバー 3
ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾋﾞｭｰﾂｰﾙﾊﾞｰ 7
ｸﾞﾗﾌｨｯｸ項目ﾂｰﾙﾊﾞｰ 9
編集ウィンドウ ツール バー 10
ウィンドウ レイアウト ツール バー 15
自動フィーチャー ツール バー 17
測定フィーチャー ツール バー 19
組み立てられたフィーチャー ツール バー 20
[点群]ツールバー 22
ディメンション ツール バー 22
配置ツールバー 23
設定ツール バー 25
プローブ モード ツール バー 29
[チップの選択]ツールバー 31
アクティブ アーム ツール バー 32
アクティブ回転テーブル ツール バー 33
ClearanceCube ツールバー 33
ウィザード ツール バー 34
Excel オプションの設定 36

ツールバーの構築および検査 39

QuickMeasure ツールバー 40

QuickCloudツールバー 41

ツール バーの使用

ツール バーの使用: イントロダクション

お客様の測定ルーチンのプログラム作成にかかる時間を短縮するため、PC-DMISでは、頻繁に使用されるコマンドからなる、様々なツール バーを用意しています。これらのツールバーは、二つの方法を用いて、アクセスすることができます。

- **表示 | ツール バー**を選び、メニューからツール バーを選択して下さい。
- PC-DMISの**ツールバー**エリアを右クリックし、現れたショートカット メニューからツール バーを選択して下さい。

選択可能なツール バーは、以下の通りです:

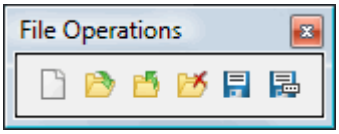
- ファイル オペレーション ツール バー
- グラフィックス モード ツール バー
- グラフィックス画像ツール バー
- グラフィックス項目ツール バー
- 編集ウィンドウ ツール バー
- ウィンドウ レイアウト ツール バー
- 自動フィーチャー ツール バー
- 測定フィーチャー ツール バー
- 組み立てられたフィーチャー ツール バー
- ディメンション ツール バー
- 配置ツールバー
- 設定ツール バー
- プローブ モード ツール バー
- [チップの選択]ツールバー
- アクティブ アーム ツール バー

- アクティブ回転テーブル ツール バー
- クリアランスキューブツールバー
- ウィザード ツール バー
- ツールバーの構築および検査
- QuickMeasure ツールバー
- QuickCloudツールバー
- QuickCMM ツールバー

従来の[**推測モード**]、[**プローブ読み取り**]、および[**手動/DCC**]ツールバーをお探しの場合、それらは[**プローブモード**]ツールバー上に配置されています。「プローブ モード ツールバー」を参照して下さい。[**推測モード**]アイコンはまた、プローブツールボックス内にも含まれており、それに関しては「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」の章にある「プローブ ツールボックスの使用」の項目で説明されています。

また、ユーザー独自のツールバーをカスタマイズして作成することもできます。詳しくは、「ユーザー インターフェースの利用」の章にある「ユーザーインターフェースのカスタマイズ」を参照して下さい。

ファイル オペレーション ツール バー



ファイル オペレーション ツール バー

ファイル オペレーションツール バー(**ビュー | ツールバー | ファイル オペレーション**)を用いると、最もよく使用されるファイルオペレーションの一部をすばやく行うことができます。このツールバーには、下記のアイコンが含まれます。

アイコン		内容
	新規	新規の測定ルーチンを作成する
	開く	既存の測定ルーチンを開く

	閉じる	アクティブ測定ルーチンを閉じる
	去る	PC-DMISを去る
	保存する	現在の測定ルーチンを保存する
	新名で保存する	異なる名前で現在の測定ルーチンを保存する

これらのファイル
オペレーションに関する、網羅された情報については、「基本的なファイルオプションの使用」及び「高度なファイルオプションの使用」の章を参照して下さい。

グラフィックスモードツールバー

グラフィックスモードツールバー

グラフィックス モードツールバー(ビュー | ツールバー | グラフィックス モード)を用いると、画面上のパーツの表示を変更することができます。また、利用可能なモードに簡単にアクセスすることもできます。このツール バーには、以下のアイコンがあります:

ビューの設定

グラフィックの表示ウィンドウでパーツの表示を変更します。「CAD表示の編集」の章の「画面ビューの設定」を参照してください。

ビューの保存

その時点でのビューセットを後に呼び出しできるように、パーツの画像を保存します。「レポートコマンドの挿入」の章の「ビューセットの利用」を参照して下さい。

ビューの作成

後に呼び出しできる、分離されたビューセット
コマンドとして、パーツの画像を保存します。「レポートコマンドの挿入」の章の「ビューセットの利用」を参照して下さい。

画面に合わせて表示

グラフィックの表示ウィンドウで、画面に合わせてグラフィックのビューを拡大または縮小します。「CAD表示の編集」の章にある「図面のサイズを変更」を参照して下さい。

面を描画

立体CAD曲面の表示のオン、または、オフを操作します。「CAD表示の編集」の章にある「曲面を描く」を参照して下さい。

画面を再描画

パーツの画像すべてを更新し、そして、描き直します。「CAD表示の編集」の章にある「画面を描き直す」を参照して下さい。

プローブを中心に配置

プローブをグラフィックの表示ウィンドウ画面の中心に配置し、パーツがアニメーション表示されプローブが常に中心にくるようにします。
「CAD表示の編集」の章にある「プローブを中心に配置」を参照して下さい。

曲線モード

PC-
DMISを曲線モードに置きます（ワイヤーフレームとの併用のため）。「CAD表示の編集」の章にある「曲線モードと曲面モード間での切り換え」を参照して下さい。

面モード

PC-
DMISを曲面モードに置きます（曲面データとの併用のため）。「CAD表示の編集」の章にある「曲線モードと曲面モード間での切り換え」を参照して下さい。

変換モード

PC-
DMISが変換モードに置きます。「CAD表示の編集」の章にある「変換モード」を参照して下さい。

2D 回転モード

選択された画像において、パーツを2次元的に回転します。「CAD表示の編集」の項にある「２D回転モード」を参照して下さい。

３D 回転モード

選択された画像において、パーツを3次元的に回転します。「CAD表示の編集」の項にある「3D回転モード」を参照して下さい。

プログラムモード

お客様の測定ルーチンを学習、及び、編集するために、オフライン、または、オンラインでプローブを使用します。「CAD表示の編集」の項にある「プログラム
モード」を参照して下さい。

テキストボックスモード

PC-DMISは要素ID、要素制御フレーム、点走査及びCAD GD&T
コールアウトを操作することができるモードに配置されます。さらに、このモードを使用して、寸法情報とポイント情報テキストボックスを迅速に作成し、変更することができます。「CAD表示の編集」の章にある「テキストボックス モード」を参照して下さい。

クイック固定具モード

マウスでクリックしドラッグすることにより、クイック取付具とパーツを移動することができます。「ハードウェアの定義」の章にある「クイック取付具の挿入」を参照して下さい。

GD&T 選択モード

パートモデル内に埋め込まれた GD&T
吹き出しを測定ルーチンにインポートする機能を提供します。「CAD表示の編集」の項にある「CAD GD&T 引き出し線を使用した操作」を参照して下さい。

アセンブリ

アセンブリ（パーツ
モデルの集まり）内の部品を表示したり、または、隠したりすることのできる、ウィンドウを表示します。「CAD表示の編集」の章にある「パーツ
アセンブリの操作」を参照して下さい。

CAD グループ

グループに割り当てられる CAD 要素の定義に使用する [CAD グループ]
ダイアログボックスを表示します。また、グループの変更、グループの削除、グループのグラフィック表示ウィンドウへの表示または非表示にも使用されます。「CAD表示の編集」文書にある「CADグループを使用した操作」を参照して下さい。

CAD レベル

現在示されたCADモデルに、あなたがCADレベルを定めて、示させる **CAD レベル**
ダイアログボックスを表示します。「CAD表示の編集」の章にある「CAD
レベルを使用した操作」を参照して下さい。

座標系

CAD座標システム ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ
ボックスを用いて、新規の座標システムを作成、または、既存の座標システムを選択することができます。「CAD表示の編集」の章にある「CAD座標システムの利用」を参照して下さい。

CAD 照明

CADモデルに照明、外観質感、及び、透明性を適用します。「CAD表示の編集」の項にある「CAD表示に照明及び素材を適用する」を参照して下さい。

グラフィックの表示または非表示

グラフィックの表示ウィンドウに異なる項目を表示または隠します。「CAD表示の編集」の章にある「グラフィックの表示および非表示」を参照して下さい。

回転オプション

パーツの回転中にグラフィックの表示ウィンドウに表示される項目の表示方法を変更します。「CAD表示の編集」の章にある「回転およびその他の移動オプションの変更」を参照して下さい。

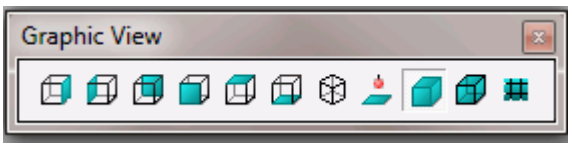
表示記号

グラフィックの表示ウィンドウでCADポイント、スキャン点、および要素点の表示に使用する記号のスタイルおよびサイズを定義。「CAD表示の編集」の章にある「表示記号の変更」を参照して下さい。

パスを再生成

測定ルーチンのパスラインを再描画します。「 CAD表示の編集」の章の「パスの再生成」トピックを参照してください。

ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾋﾞｭｰﾂｰﾙﾊﾞｰ



グラフィックス画像ツール バー

[グラフィック表示] ツールバー(**表示 | ツールバー | グラフィック表示**)を使用して、パーツをグラフィックの表示ウィンドウに表示する方法を変更できます。

これらのアイコンは[**表示の設定**]ダイアログボックスを使用して表示に影響を与えた場合と同じように機能します。ビューの設定については、「CAD表示の編集」の章にある「スクリーンビューの設定」を参照して下さい。

グラフィックの表示ウィンドウを設定して複数のビューを表示したい場合、これらのツールバーアイコンは[**ビューの設定**]ダイアログボックスの[**ビュー**]エリアにある青色ペインのみに影響します。

例えば、[**ビューの設定**]ダイアログボックスからこのアイコンを使用して画面を3つのビューに分割したい場合、

グラフィック表示項目は画面の左上（または青色の）部分にのみ影響を与えます。

このツール バーには、以下のアイコンがあります:

画像ウインドウのX+

パーツのX+ 画像を表示します。

画像ウインドウのX-

パーツのX- 画像を表示します。

画像ウインドウのY+

パーツのY+ 画像を表示します。

画像ウインドウのY-

パーツのY- 画像を表示します。

画像ウインドウのZ+

パーツのZ+ 画像を表示します。

画像ウインドウのZ-

パーツのZ- 画像を表示します。

以下の詳細は、上記項目のすべてに関連します。

流体の回転アニメーションは、選択したビューのボタンに基づいて発生します。PC-DMISは、選択したビューに基づいて画面上の中心点を維持しようとしますが、全くビューのスケーリングは行われません。

- CADが中心点である場合、そのCAD上でそのポイントが画面の中心に滞在します。
- CADは、画面の中央に存在しない場合は、 PC-DMISは、ビュー方向にCAD範囲の中点を使用します。

等軸測視図のグラフィックウインドウ

パーツの等大画像を表示します。

プローブ方向に基づくグラフィック・ウインドウ

電流プローブの先端の角度のプローブの軸に沿っての部分を見るために視点をパンして、ズームして、回転させます。

グラフィック・ウインドウを固体/ワイヤーフレームに切替

グラフィック・ウインドウは、パーツのワイヤーフレームと固体の表示モードの間に変わります。

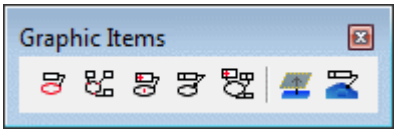
表面エッジ

パーツにボルトの輪郭線を追加することにより、サーフェスのエッジを強化します。**ソリッド**アイコンが選択されたときにこれが可能になります。

グラフィック・ウインドウ**3D**の切替

グラフィックス表示ウィンドウに3Dグリッドを表示または非表示にします。

ｸﾞﾗﾌｨｯｸ項目ﾂｰﾙﾊﾞｰ



グラフィックス項目ツール バー

グラフィック項目ツールバー(**表示 | ツールバー | グラフィック項目**)では、要素、寸法情報ボックス、点情報ボックス、要素制御フレーム (FCF) の ID ラベル及びCAD GD&T
コールアウトをグラフィックの表示ウィンドウに表示または非表示できます。

アイコン	説明
	フィーチャーIDを隠したり、または、表示したりすることができます。
	ポイント情報ボックスを隠したり、または、表示したりすることができます。

	フィーチャー コントロール フレームIDを隠したり、または、表示したりすることができます。
	ディメンション情報ボックスを隠したり、または、表示したりすることができます。
	全部のIDラベルを隠す、また示す
	ｸﾘｱﾗﾝｽ平面を隠す、また表示する
	CAD GD&T calloutsを隠す、また表示する

編集ウィンドウ ツール バー

編集ウィンドウ ツール バー

編集ウィンドウのツールバー（**[表示|ツールバー|編集ウィンドウ**）が素早く多くの画面編集機能にアクセスするために使用されています。

ツールバーは、簡単かつ直感的に使用できる方法で、編集ウィンドウの内容を操作するために使用されます。ツールバーには、これらの重要な編集ウィンドウのコマンドにすぐにアクセスを提供します。

実行

実行ツール バー
アイコンは、その時点でマーク済みのどのようなフィーチャー（複数可）でも、測定プロセスを実行（または、実施）します。「詳細ファイルオプションの使用」の章にある「測定ルーチンの実行」を参照して下さい。

その時点でのフィーチャーをマーク

その時点でのフィーチャーをマークツール バー
アイコンは、お手持ちのカーソル下にあるフィーチャーをハイライト表示し、そのフィーチャーの実行に備えます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク」を参照して下さい。

すべてをマーク

[すべてをマーク]ツール
バーアイコンは、編集ウィンドウ内の幾何要素すべてをハイライト表示します。PC-DMISは、アラインメントに用いる幾何要素もハイライト表示したいか、尋ねます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「すべてをマーク」を参照して下さい。

マーク済みフィーチャーのマークを消去

[マークの消去]ツール バー
アイコンは編集ウィンドウ内のその時点でマークされている要素からすべての強調を削除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「すべてをマーク」を参照して下さい。

スタートポイントの設定

スタートポイントの設定ツール バー
アイコンを用いると、アクティブな学習アーム用のスタートポイントを設定することができます。編集ウィンドウより、スタートポイントに使用したいコマンドをクリックしてから**[スタートポイント]**ツールバー
アイコンをクリックします。現在のアームのスタートポイントが、挿入地点にあるコマンドに設定されます。また、コマンドを右リックして、**スタートポイントの設定**を選択することにより、スタートポイントを設定することも可能です。複数アーム
モードに関しての詳細は、「複数アームモードの使用」の章を参照して下さい。

詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「スタートポイントの設定」を参照して下さい。

ブレークポイントの挿入/除去

[ブレークポイントの挿入]ツール
バーのアイコンは、測定ルーチン内のその時点でのカーソル位置にブレークポイントを挿入します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブレークポイントの使用」を参照して下さい。

すべてのブレークポイントを除去

[すべてのブレークポイントを除去]ツール
バーのアイコンは、測定ルーチン内のブレークポイントをすべて除去します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「すべてを除去」を参照して下さい。

ブックマーク挿入

ブックマーク挿入ツール
バーのアイコンは、測定ルーチンにその時点のカーソル位置にブックマークを配置します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブックマークの切替」を参照して下さい。

次のブックマーク

[次のブックマーク]ツール バー
アイコンを用いると、測定ルーチン内の次のブックマーク所在位置に、お手持ちのカーソルをジャンプ移動します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「次のブックマーク」を参照して下さい。

全ブックマーク消去

[ブックマークの消去]ツール
バーのアイコンは測定ルーチンからブックマーク（複数も可）を削除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「すべてのブックマークの消去」を参照して下さい。

要約モード

[要約モード]ツール バー
アイコンを選択すると、編集ウィンドウが要約モードになります。このモードでは、お客様の測定ルーチン内の全フィーチャー、及び、全コマンドに関する、拡大縮約表示が可能なグラフィックスを用いた要約が得られます。また、ある限定された範囲内での編集を行うことも可能です。「編集ウィンドウの使用」の項の「要約モードの使用」を参照して下さい。

コマンド モード

[コマンド モード]ツール バー アイコンを選択すると、編集ウィンドウがコマンド
モードになります。このモードを用いると、様々なコマンドにアクセスでき、これらのコマンドで測定ルーチンの各種状況を編集することができます。「編集ウィンドウの使用」の章の「コマンドモードでの操作」を参照して下さい。

DMISモード

DMISフォーマットでの編集ウィンドウ・コマンドを表示するために、**編集ウィンドウ**・ツールバー(**視界|ツールバー|編集ウィンドウ**)上の**DMISモード**ボタンをクリックしてください。

このモードを用いると、必要に応じて、DMISシンタックスを使用できます。お手持ちのツール
バー上にこのアイコンが見えない場合、**セットアップ オプション**ダイアログ
ボックスの**一般**タブにある**編集ウィンドウでのDMISボタンの使用**チェック
ボックスを選択して下さい。「仕様の設定」の章の「セットアップ
オプション：一般タブ」の項目を参照して下さい。

DMISに関するより詳しい説明については、http://www.dmis.comを参照して下さい。

「編集ウィンドウの使用」の章の「DMISモードの使用」を参照して下さい。

切る

[切り取り]ツール バー
アイコンを用いると、編集ウィンドウ内のテキスト、及び、オブジェクトを切り取り、切り取られた情報を一時的にクリップボードに配置することができます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「切り取り」を参照して下さい。

コピー

コピーツール バー
アイコンを用いると、編集ウィンドウ内のテキスト、及び、オブジェクトをコピーでき、後に貼り付けを行うために、それらを一時的にクリップボードに配置することができます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「コピー」を参照して下さい。

貼り付け

[貼り付け]ツール バー
アイコンは、編集ウィンドウ内にある情報を、その時点でのカーソル位置に貼り付けます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「貼り付け」を参照して下さい。

パターンの貼り付け

[パターンの貼り付け]ツール バー
アイコンは、オフセットの付いたパターン化したフィーチャーを、その時点でのカーソル所在位置にある測定ルーチン内に貼り付けます。より詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の項にある「フィーチャー パターンの編集」を参照して下さい。

アンドゥ

[元に戻す]ツール バー
アイコンは、編集ウィンドウ内で行われた最後の操作を削除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「元に戻す」を参照して下さい。

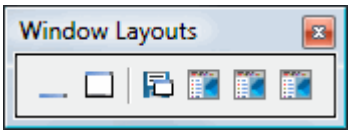
やり直し

[再実行]ツール バー
アイコンは[元に戻す]を用いて除去された操作を再実行します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」の章にある「再実行」を参照して下さい。

印刷

[印刷]ツール バー アイコンを用いると、ダイアログ
ボックスを表示せずに、編集ウィンドウの現在の内容のレポートを、デフォルトのプリンターに即座に送付します。

ウィンドウ レイアウト ツール バー



ウィンドウ レイアウト ツール バー

ウィンドウ レイアウトツールバー(**ビュー | ツールバー| 画面レイアウト**)を使用して、開いているウィンドウ、エディタ、及びツール
バーすべてのレイアウトを保存し、次に、アイコンをクリックしてその時点の測定ルーチンにそれらを回復することができます。

重要事項: この機能は、ツール
バーとウィンドウの位置付けを保存するだけでなく、そのウィンドウとツール

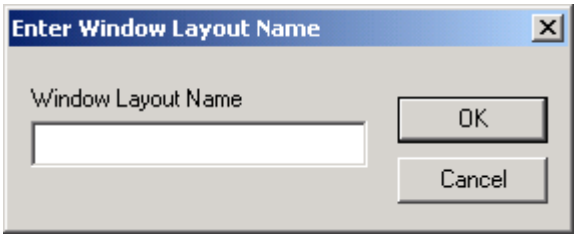
バーに連結した設定とオプションも保存されることに注意してください。レイアウト用に選択された設定があり、そのレイアウトが保存された場合、その設定もレイアウトと共に保存されます。保存されたレイアウトを上書きすることなく、このウィンドウ設定が後に選択解除された場合で、次回このレイアウトが選択されると、PC-DMISはその保存された設定を回復します。

このツール バーには、以下のアイコンがあります:

最小化 アイコンは編集ウィンドウのサイズを最小化します。

最大化 アイコンは編集ウィンドウのサイズを最大化します。

保存 アイコンは **[ウィンドウのレイアウト名を入力]** ダイアログボックスを開き、開いているウィンドウ、エディタ、またはツールバーの現在の位置とサイズをお好きなレイアウト名で保存できるようにします。



ウィンドウ
レイアウト名ボックスでは、レイアウト用の名称を指定することができます。PC-DMISはまた、この名称を、そのレイアウトと結びついたアイコン用のヒントとして表示します。レイアウト名を含まない場合、PC-DMISは「ウィンドウ
レイアウト呼び出し」というデフォルト設定の名称を使用します。

OKがクリックされると、そのレイアウトが保存され、そのレイアウトを示すアイコン がレイアウト設定と共に、ツール バー上に現れます。

新規のレイアウトに、既存のレイアウトと同一の名称を付けることによって、既存のレイアウトを新規のレイアウトで上書きすることはできません。既存のレイアウトを上書きしたい場合には、まず既存のレイアウトを削除し、それから、新規のレイアウトに同一の名称を付けてください。

保存されたレイアウトの復元アイコンは、保存されたレイアウトを復元します。ウィンドウ

、エディタ、およびツールバーは保存されていた位置に復元されます。アイコンの上にマウスを置くと、保存されたレイアウトの名前が表示されます。

付記:
複数の測定ルーチンが開いた状態で、そのうちの一つを用いてレイアウトを作成、保存した場合、レイアウト作成に用いられた測定ルーチンが優位になります。保存されたレイアウトを作成するのに使用される測定ルーチンはアクティブな測定ルーチンになり、保存されたウィンドウレイアウトを表示します。

保存されたユーザー レイアウトの削除

保存されたユーザー レイアウトを削除するには:

1. ツール バーエリアを右クリックし、**カスタマイズ**を選択して下さい。**カスタマイズ**ダイアログボックスが表示されます。
2. キーボードのシフトキーを押し続けます。
3. **ウィンドウ レイアウト**ツールバーのアイコン上で、マウスをクリックし、そのまま押さえ続けて下さい。アイコンが移動可能になります。
4. 当アイコンをツール バーの境界線外へドラッグして下さい。
5. マウスボタンを離します。

当アイコンと、それに連結したレイアウトが削除されます。

自動フィーチャー ツール バー

自動フィーチャー ツール バー

自動要素ツール バー（**表示 | ツールバー | 自動要素**）を用いると、**自動要素**ダイアログボックスの各種タブで利用可能なものと同じ自動要素にアクセスすることができます。

以下のオプションが利用可能です:

アイコン	幾何学要素の種類
	ベクトル点
	面上点
	エッジ点
	交点
	コーナー ポイント
	最上部点
	特徴点
	直線
	表面
	円
	楕円
	丸型溝
	四角形ｽﾛｯﾄ
	切り欠き
	ﾌﾗｯｼｭとｷﾞｬｯﾌﾟ
	多角形
	輪郭(2D)
	Blob
	円柱
	円錐
	校正球

注記: 作動可能なプローブのタイプとポートロックの設定に基づいて、PC-DMISは、当ツール バー内、及び、メニュー内において、どの自動要素項目を作動可能にするか決定します。接触しないプローブを作動可能にする場合にかぎり、
特性点、**フラッシュとギャップ**、及び**段差**アイコンが選択可能になります：

自動要素アイコンをクリックすると、**自動要素**ダイアログ
ボックスがその要素タイプを選択して表示されます。自動要素を作成するには、「自動要素の作成」の章に記載された指示に従ってください。準備ができたら、**[自動要素]**ダイアログボックスの[END] キーまたは**[作成]**
ボタンを押して、要素を測定ルーチンに挿入します。要素を作成する前に、ALT + 「-」キーを同時に押して、ヒット バッファからヒットを除去することができます。

ヒント: 自動フィーチャーダイアログ
ボックスの最小化ボタンをクリックして下さい。これにより、*自動フィーチャー*ダイアログ
ボックスを**隠した**状態で、依然、選択した板金フィーチャーを作成できます。

測定フィーチャー ツール バー

測定フィーチャー ツール バー

測定要素ツール バー(**ビュー | ツールバー | 測定要素**)を用いると、PC-DMISが、ヒットを行っている要素のタイプを自動的に推測、及び、表示するか、または、選択された要素のタイプを受け入れるようPC-DMISに強制することが可能です。

自動的に、フィーチャーのタイプを推測

推測モードアイコンが選択された場合、PC-DMISは、各ヒットが行われた後に、要素のタイプを示すアイコンを表示します。実際に作成される前にこれが要素タイプを視覚的にプレビューを提供します。

例えば、円筒を測定する場合、ピンの高さに沿って異なる2つのレベルで4つのヒットからなるセットを2つ取得します。一つのレベルで4つのヒットを取得すると、PC-DMISはグラフィックの表示ウィンドウに[円]アイコンを表示します。2番目のレベルのヒットを取得すると、PC-DMISは[円筒]アイコンを表示します。

選択されたフィーチャー タイプを強制

このツール バー上のフィーチャー タイプ アイコンを用いると、選択されたフィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制することができます。

アイコン	説明
	点フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	直線フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	平面フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	円フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	円形スロットフィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	四角形スロットフィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	円筒フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	円錐フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	球フィーチャー タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。
	PC-DMIS が円環面要素タイプを受け入れるよう指示する

(**推測モード**アイコン を使用して) 推測モードで取込点を取得し、PC-DMISが誤った要素タイプを表示した場合、正しい要素のアイコンをクリックし、その要素を受け入れるよう PC-DMISに伝えます。ENDキーが押され、その要素が作成されるまでは、測定ルーチンに付け加えられることはありません。「-」、または、ALT + 「-」キーを押して、取込点を削除することが可能です。

例えば、**円**アイコンが選択された場合、最低数のヒットが行われているかぎりにおいて、PC-DMISは、強制的に円フィーチャー タイプを受け入れます。

組み立てられたフィーチャー ツール バー

組み立てられたフィーチャー ツール バー

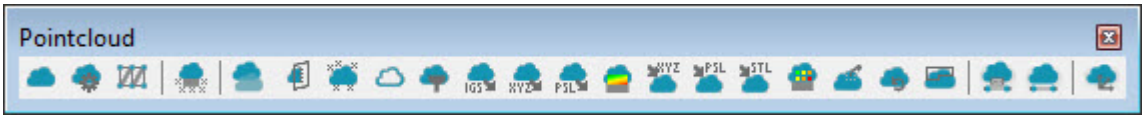
構築要素ツールバー（**ビュー|ツールバー|構築要素**）から、アイコンを使用して、**挿入 | 要素 | 構築**サブメニューから利用可能な要素の構築オプションに素早くアクセスすることができます。

アイコン	説明
	点
	直線
	平面
	円
	楕円
	丸型溝
	四角形ｽﾛｯﾄ
	曲線
	円筒
	円錐
	球
	曲面
	フィーチャーのセット
	ガウス フィルター
	一般
	調整フィルタ

これらの項目に関する説明については、「既存フィーチャーからの新規フィーチャー組み立て」の章、及び「汎用フィーチャーの作成」の章を参照して下さい。

読み取りポイント挿入に関する説明については、「汎用フィーチャーの作成」の章で利用可能な文書を参照して下さい。

[点群]ツールバー



[点群] ツールバー

[ポイントクラウド]ツールバーでは、すべてのポイントクラウド演算、要素および機能の標準フローを作成することができます。それはシステムの構成に応じて、[表示|ツールバー|ポイントクラウド]メニューからアクセスできます。

すべての点群ツールバー機能について詳しくは、PC-DMISレーザードキュメントの「点群ツールバー」トピックを参照してください。

ディメンション ツール バー

ディメンション ツール バー

寸法ツールバー（[表示|ツールバー|ディメンション）はすぐに寸法メニューから利用可能なオプションにアクセスするために使用されます。

アイコン	説明
	所在位置
	位置付け
	距離
	間の角度
	偏心度
	同軸性

	真円度
	円筒度
	真直度
	平面度
	垂直度
	並列性
	全外れ
	円形外れ
	曲面プロファイル
	直線プロファイル
	角
	対称
	キーボード入力

配置ツールバー

配置ツールバー

配置ツールバー（**表示|ツールバー|配置**）を使用して、**配置**サブメニューから使用できる配置オプションにすばやくアクセスします。

以下の配置機能が使用できます：

QuickAlign (Ctrl+Alt+L) -
QuickAlignボタンはツールバーのアイコンをシングルクリックするだけで編集ウィンドウ

から線形を作成することができますように設計されています。詳細については、「QuickAlignについて」のトピックを参照してください。

新規アラインメント (Ctrl+Alt+A) -
測定ルーチンで新規アラインメントを作成するための**[アラインメント ユーティリティ]**ダイアログボックスを表示します。**[アラインメント ユーティリティ]**ダイアログボックスの使用について詳しくは、「アラインメント ユーティリティの説明」トピックを参照してください。

アラインメントの保存 -
現在のアラインメントを異なる測定ルーチンによって再呼び出しできる外部ファイルに保存するための**[名前を付けてアラインメントを保存]**ダイアログボックスを表示します。詳しくは、「アラインメントの保存」トピックを参照してください。

アラインメントの再呼び出し -
現在の測定ルーチンで以前に作成されアラインメントまたは別の測定ルーチンから保存されたアラインメントを再呼び出しできるようにします。アラインメントの再呼び出しについて詳しくは、「既存のアラインメントの再呼び出し」トピックを参照してください。

アラインメントの同一化 -
これによって、パーツの位置または方向を変更したり、パーツが偶然に移動したときにアラインメントを元に戻すことができます。詳しくは、「アラインメントの同一化」トピックを参照してください。

注記:ポータブルシステムに接続されている場合のみに、以下の2つの位置合わせ機能が使用できます。

リープフロッグ - リープフロッグ / 再配置
ダイアログボックスを表示します。このメニューオプションはオフラインモードでは無効になります。物理的にサポートされたポータブル測定機に接続している必要があります。詳しくは、「リープフロッグ操作の実行」トピックを参照してください。

バンドル アラインメント - バンドル
アラインメントは大規模または複雑な測定のためのポータブル

システムにおいて主として使用され、同じセンサーをオブジェクトの周りの異なった位置に動かすことによって、一般的なネットワークで多くのステーションを作成します。詳しくは、PC-DMISポータブル ドキュメントの「バンドル
アラインメント」トピックを参照してください。

設定ツール バー

設定ツール バー

設定ツールバー(**ビュー | ツールバー | 設定**)には、以下の設定の間で切り換えが簡単にできる方法を提供する各種のツールバーの一覧があります。ツールバーの左から右に、これらの設定は次のとおりです。

1. 保存されたビュー（ビューのリスト）
2. あらかじめ定められた整列(整列リスト)
3. アクティブのインターフェース(コンフィギュレーション一覧)
4. プローブ類別（プローブ一覧）
5. 事前定義されたプローブ･チップ（プローブ･チップ一覧）
6. 利用可能な作業平面（作業平面の一覧）
7. 投影先平面（投影面一覧）

機械を接続 - PC-DMISがオフライン・モードである場合、このボタンが現われます。それは、オンライン・モードにおけるPC-DMISを実行し、機械を初期化します。

機械切断ーもしＰＣ - DMIS がオンラインのモードにあるなら、このボタンは現われます。それは、機械から切断されて、オフラインモードでPC-DMISを実行します。

画像一覧

[ビュー]リストは、アクティブな測定ルーチンで作成、保存されているビューを一覧表示します。

「CAD表示の編集」の章にある「スクリーン画像セットアップ」と「レポートコマンドの挿入」の章にある「ビューセットの利用」を参照して下さい。

保存されている画像を使用するには:

1. マウスポインターを、**画像**一覧のダウン矢印上に配置して下さい。
2. マウスの左ボタンをクリックして下さい。
3. ご希望のID上に、マウスを移動して下さい。
4. マウスの左ボタンをクリックして下さい。

PC-
DMISが画像呼び出しを行っている途中には、その他の機能が一時的にアクセス不可能になります。

編集ウィンドウのコマンドラインは:
RECALL/VIEWSET, view_set_name

View_set_name =呼び出しするビューセットの名称が入ります。

パーツ配置一覧

パーツ配置一覧には、以前にセーブされたパーツ配置が保存されています。これらの配置は選択されると、編集ウィンドウ内に挿入が可能です。

整列の作成と保存の方法に関する、追加の情報については「整列の作成と使用」の章の「整列の保存」を参照して下さい。

パーツ配置を変更するには：

1. マウスの矢印を**配列**一覧のダウン矢印上に配置して下さい。
2. マウスの左ボタンをクリックして下さい。ドロップダウン一覧が表示され、これを用いると、新規のパーツ配置を選択することができます。

編集ウィンドウ内のパーツ配置に行き、`ALIGNMENT/START`コマンドの`LIST=`部分の数値を変更することにより、この一覧にどのパーツ配置が表示されるか、コントロールできます（より詳しい説明については、「パーツ配置の作成と使用」の章を参照して下さい）。

設定リスト

設定リストは、その場で異なる機械設定の間で切り替わることを可能にします。これは、PC-DMISのシングル座席を備えた多数の計測装置を使用する人々に役立ちます。PC-DMIS 2011年のMR2の前のバージョンでは、手動でインターフェース・ファイルをinterfac.dllにコピーして改名し、それを設置ディレクトリーに置かなければなりません。このリストを使用する場合は、PC- DMISはこの場で自動的にそれを行います。

注：設定リストは、複数のインタフェース設定が切り換わるようになっており、ポートロックが適切なオプションでプログラムされている場合にのみ表示されます。リストは PC-DMIS に付属の独立型コンフィギュレータ ユーティリティから生成される xml ファイルを読むことによって追加されます(「ユーザー設定」の章の「PC-DMIS コンフィギュレータの使用」トピックを参照)。これらのXMLファイルは、このディレクトリに格納されます。
C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\WAI\PC-DMIS\<バージョン>\Configurations\

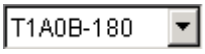
<ユーザー名>は、お使いのコンピュータへのログインに使用するユーザー名であり、<バージョン>はPC- DMISのバージョンです。

プローブ一覧

プローブ一覧を用いると、お手持ちのプローブファイル内に既に定義されたプローブを選択します。PC-DMISが、編集ウィンドウ内にLOADPROBEコマンドを挿入します。

注： PC-DMISは**太字**でそれを表示することによって**設定ツールバー**の**プローブリスト**で現在アクティブなTProbeをマークします。ユーザが物理的にアクティブなTProbeでないリストと異なるプローブを選んで、ヒットを取ると、警告メッセージが表示されます。物理的にアクティブなプローブのプローブ設定を常に使用することをお勧めします、そうしない場合、ヒットしたデータがボールの直径およびオフセットに対して正しく補正されない場合があります。

プローブ先端チップ一覧



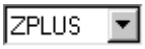
プローブチップリストには、以前定義されたプローブチップの角度が格納されています。チップ角度の作成方法については「ハードウェアの定義」の章から「角度の追加」を参照してください。

先端チップ番号を変更するには:

1. **プローブ先端チップ**
   一覧のダウン矢印をクリックして、利用可能な先端チップを通覧して下さい。

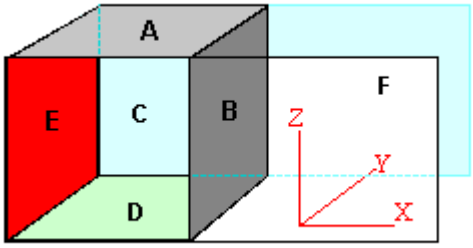
2. マウスの左ボタンを用いて、ご希望の先端チップを選択して下さい。

作業平面一覧



作業平面
ドロップダウンリストでは、作業する平面を変更できます。これは、グラフィックの表示ウィンドウのビューを変更せず、作業平面のみを変更します。

利用可能な作動平面は：



A=最上部	淡い灰色	Zプラス
B=右	濃い灰色	Xﾌﾟﾗｽ
C=後部	水色	Yﾌﾟﾗｽ
D=底部	黄緑色	Zﾏｲﾅｽ
E=左	赤色	Xマイナス
F=前部	クリア	Yマイナス

例えば、その時点での作業平面を、パーツ画像の後背部に変更するには:

1. マウスポインターを、**作業平面**一覧のダウン矢印上に配置して下さい。

2. ドロップダウン一覧から、Yプラスを選択し、新規の作動平面に設定して下さい。

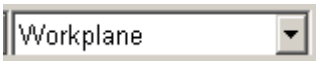
測定された直線と作業平面

測定された線を作成する場合、PC-DMISは線に対するヒット数を取ると、現在の作業平面に垂直なベクトルとみなします。

例えば、現在の作業平面がZプラス(ベクトル0,0,1)であり、まとまったパーツがある場合、線を測定するためのヒットはそのパートの前面や側面等、垂直な面上にある必要があります。

それから、当パーツの上部表面上にある、直線フィーチャーを測定する場合、直線の方向次第で、作動平面を、Xプラス、Xマイナス、Yプラス、または、Yマイナスに切り換える必要があります。

平面の投影のリスト



投影の平面一覧には、測定ルーチン内で作成された、全平面フィーチャーの一覧があります。デフォルト設定により、PC-DMISは、測定された直線それぞれをその時点での作業平面に投影するので、この一覧上のデフォルト項目は**作業平面**を表示します。しかし、この一覧から異なる平面を選択することができます。その後、PC-DMISは、測定された直線と円それぞれを、新規に選択された平面に投影します。

プローブ モード ツール バー

プローブ モード ツール バー

プローブモードツールバー(**ビュー | ツールバー | プローブモード**)にはアイコンが含まれ、これを使用して現在のプローブまたはCMMによって使用される異なるモードを入力することができます。

以下に利用可能なアイコンを説明します。

手動モード

このアイコンを使用して PC-DMIS を手動モードにします。手動モードでは測定機の移動および測定を手動でコントロールできます。手動モードは手動 CMM で、または自動 CMM で測定ルーチンの手動アラインメント部分を実行する際に使用できます。

このアイコンを選択すると、編集ウィンドウ内のカーソルの所在位置に`MODE/MANUAL`コマンドが挿入されます。このコマンドに続く、編集ウィンドウのコマンドは、手動モードで実行されます。

DCC モード

このアイコンを使用して PC-DMIS を DCC モードにします。DCC モードはサポートする DCC 測定機が自動的に測定ルーチンの測定を引き継ぐことを可能にします。

このアイコンを選択すると、編集ウィンドウ内のカーソルの所在位置に`MODE/DCC`コマンドが挿入されます。このコマンドに続く、編集ウィンドウのコマンドは、DCCモードで実行されます。

読み取りモード

このアイコンは LK
測定機を使用している場合のみに利用できます。プローブを読み取りモードにします。詳細については、「プローブを読み取りとヒットモードに配置」を参照してください。

ヒットモード

このアイコンは LK
測定機を使用している場合のみに利用できます。プローブをヒットモードにします。詳細については、「プローブを読み取りとヒットモードに配置」を参照してください。

点の自動トリガモード

このアイコンは `POINT AUTOTRIGGER`
コマンドを測定ルーチンに挿入します。「優先設定」の章の「[点の自動トリガ]エリア」トピックを参照してください。

面の自動トリガモード

このアイコンは `PLANE AUTOTRIGGER`
コマンドを測定ルーチンに挿入します。「優先設定」の章の「[面の自動トリガ]エリア」トピックを参照してください。

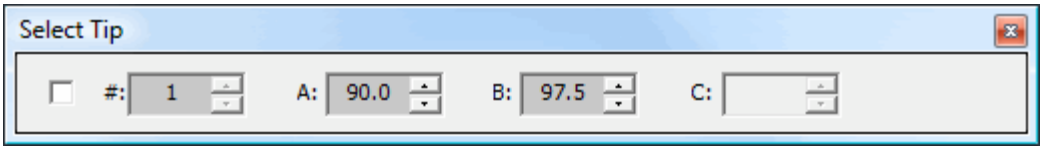
CAD から公称値を検索モード

このアイコンは、**[設定オプション]**ダイアログボックスの**[一般]**タブで**[公称値検索]**チェックボックスを選択します。「優先設定」の章の「公称値検索」トピックを参照してください。

点専用モード

このアイコンは、**[設定オプション]**ダイアログボックスの**[一般]**タブで**[点専用モード]**チェックボックスを選択します。「優先設定」の章の「点専用モード」トピックを参照してください。

[チップの選択]ツールバー



[チップの選択] ツールバー

[チップ選択]ツールバー(**ビュー|ツールバー|チップ選択**)は測定ルーチンに先端(星プローブの場合の)、および歯先円錐角(検出ヘッド角度および手首回転を支援する配置の場合の)を素早く挿入するために使用されます。これらは既存の校正済みチップに制約されるか、または
、[**プローブのユーティリティ**]ダイアログ
ボックスへアクセスしてから[**角度の追加**]ボタンをクリックするという従来のルートを通る必要なしにプローブ ハードウェアがサポートする任意の新規角度を挿入できます。

例えば、オフラインモードで要素を学習しているが、異なる角度を使用しない限り、パーツを固定している治具がプローブの測定を許可しないと仮定します。このツールバーを使用して、望ましい角度の視覚化および定義が素早く行え、従来の手順よりも簡単なワークフローが可能となります。目的の角度を入力(または上下増分矢印を使用)
するだけです。編集ボックスで変更が起こるたびに、PC-
DMISはチップまたはチップ角度を測定ルーチンに挿入し、グラフィックの表示ウィンドウでプローブを適切に描画します。

以下に利用可能なアイコンを説明します。

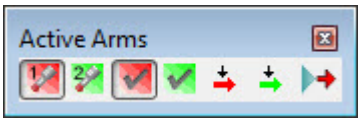
チェックボックス
このチェックボックスにはツールバーが含まれ、校正済みのチップ角度のみを選択できます。この項目を選択し、A、B、またはCのひとつを増加すると、最も近い校正済みチップ角度が選ばれて測定ルーチンに挿入されます。

このチェックボックスをオフにすると、プローブ型で有効なチップ角度の増分を任意に定義できます。

ボックス番号
このボックスは先端の番号を表し、回転ヘッドまたは関節を持たず、代わりに複数の物理先端を持つプローブタイプで使用します。例えば、星型プローブは5つのプローブ先端を持ち、それぞれが先端番号で表されます。このボックスからその番号を入力または選択すると、関連するチップコマンドが測定ルーチンに挿入されます。

A、B、C ボックス
これらの角度ボックスはプローブヘッドおよびリストのA、B、および C
角を定義します。各ボックスのそれぞれの角度を次の有効な値に増加または減少するために右側にある矢印をクリックします。

アクティブ アーム ツール バー



アクティブ アーム ツール バー

アクティブのアームツールバーが（**操作|マルチアームモードに入る**）、複数のアームを操作するために使用されています。

アーム 1 アクティブボタン -
数字1を持つツールバーのボタンは、「マスター」アームに対応しています。選択されると、アーム 1 はアクティブであると見なされます。

アーム 2 アクティブボタン -
数字2を持つツールバーのボタンは、第二のアームに対応しています。アクティブなアームは、一度にひとつと限定されています。選択すると、アーム2はアクティブであると見なされます。

アーム1で実行ボタン - 選択すると、測定ルーチンがアーム1で実行されます。

アーム2で実行ボタン - 選択すると、測定ルーチンがアーム2で実行されます。

アーム1始点に移動ボタン -
[編集]ウィンドウ内のカーソルをアーム1測定ルーチンの開始点上部に移動させます。

アーム2始点に移動ボタン -
[編集]ウィンドウ内のカーソルをアーム2測定ルーチンの開始点の上部に移動させます。

始点から実行ボタン - 両腕の測定ルーチンの実行が現在定義されている始点から開始されます。

また、アクティブなアームに対応した、色付きのチェック マーク
アイコンをクリックして、特定のアームに連結したコマンドを実行することも可能です。

現時点では、複数アームモードのアドオンパッケージがシステム用に購入されている場合のみ、**アクティブ アーム**ツールバーが選択可能です。

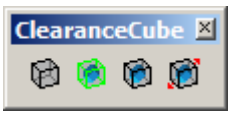
複数アームCMMのセットアップ、及び使用に関する、より詳しい説明については、「複数アームモードの使用」の章を参照して下さい。また、このツール
バーの使用に関する追加情報については、この章の「アームにコマンドの割り当て」の項目を参照して下さい。

アクティブ回転テーブル ツール バー

アクティブ回転テーブル ツール バー

アクティブ回転テーブルツールバー（**[表ビュー|ツールバー|アクティブ回転テーブル**）が2回転テーブルからどちらがアクティブなテーブルであるかを選択するために使用されます。**編集 | 優先設定 | 回転テーブル セットアップ**メニュー
オプションを用いて、回転テーブルがセットアップされるまで、このツール
バーの選択は利用不可能のままです。より詳しい説明については、「カスタマイズ設定」の章にある「回転テーブルの定義」を参照して下さい。

ClearanceCube ツールバー



ClearanceCube ツールバー

ClearanceCubeツールバー(**表示|ツールバー|ClearanceCube**)を使用して、ClearanceCube機能に関連するオプションを有効または無効にします。「CAD表示の編集」の章にある「ClearanceCubeの使用」を参照して下さい。

以下のオプションが利用可能です:

ClearanceCube の定義ボタンは [**ClearanceCube の定義**] ダイアログボックスを表示します。詳細は「(簡易) ClearanceCube の定義」の章を参照してください。また、 Altキー+ Cをクリックしてダイアログボックスを表示することもできます

ClearanceCube の移動をアクティベート ボタンは ClearanceCube の移動を有効または無効にします。

- 有効にすると、測定ルーチンはClearanceCubeを使用して、その動作をコントロールするか、*クリアランス平面を無効にします*。
- 無効にすると、測定ルーチンはその動作をコントロールするために既存のクリアランス平面コマンドを使用します。

ClearanceCube を表示 ボタンはグラフィックの表示ウィンドウで ClearanceCube を表示または非表示にします。

ClearanceCube のサイズを変更 ボタンは、ClearanceCube の表面をクリックおよびドラッグし、グラフィックの表示ウィンドウでその面の ClearanceCube のサイズを変更する機能を有効または無効にします。

ウィザード ツール バー

ウィザード ツール バー

このツール バー上のアイコンは、初めに、PC-DMISと共にインストールされた外部ウィザードによる制限をうけます。これらのウィザードには、2つの目的があります:

- このアプリケーションの使用方法をまだ学習中の新規ユーザーの有用性を高めるため。
- これらのウィザードのソースコードにアクセスすることで PC-DMIS の柔軟性とカスタム可能性を示します。ソースコードの説明は「利用可能なウィザードソースコード」トピックを参照してください。

以下のウィザード アイコンが使用できます：

3-2-1 アラインメントウィザード – このウィザードは2つの基本的なアラインメント、3-2-1 アラインメントと 2円のアラインメントを順を追って説明します。

CAD インポートウィザード –
このウィザードでは一つまたは複数のCADモデルを現在の測定ルーチンにインポートできます。アイコンをクリックするとダイアログボックスが現れます。インポートするファイル一つ以上選択し、[開く]をクリックします。

データフィールド編集ウィザード –
このウィザードでは**[置換]**ダイアログボックスを使用した置換ができない編集ウィンドウで、特定のフィールドを置換することができます。「測定ルーチンの編集」の章にある「データフィールドの編集」を参照して下さい。

DMIS 出力ウィザード – このウィザードは、検査レポートの DMIS 出力ファイルをエクスポートする際に役立ちます。

反復アラインメント ウィザード –
このウィザードは、反復アラインメントの作成手順を順を追って説明し、入力の背後にあるアラインメントのルールに関して説明します。

複数実行ウィザード –
このウィザードでは測定ルーチンの実行を無限に、あるいは指定の回数だけ容易にループすることが可能です。また、反復の間表示される特定のメッセージを選択することもできます。

PCD2Excel ウィザード – このウィザードは PC-DMIS 測定ルーチンデータを選択した Microsoft Excel

ファイルにエクスポートします。ウィザードのオプションを設定するには、**[設定]**をクリックします。設定オプションの詳細は「Excel 出力の設定」トピックを参照してください。

重要: PCD2Excel ウィザードが正しく機能するには Excel 2003 以降が必要です。

プローブ ウィザード –
このウィザードはプローブの定義方法を示し、新規に定義されたプローブの校正をできるようにします。

データベースウィザード – このウィザードは ODBC
データベースを作成および登録する場合に便利です。これは、ポートロックが**[統合された統計]**オプションに設定されている場合のみに現れます。

Excel オプションの設定

ウィザーズ・ツールバー(**視界|ツールバー|ウィザーズ**)上で見つかった**構成**ボタンは、これらの設定オプションを備えた**Pcd2Excel**ダイアログ・ボックスを表示します:

アクティブな測定ルーチン - 現在の測定ルーチンの名前を表示します。

出力ファイル - ファイル名およびその場所を定義します。**[ファイル名]** ボックスは出力先である Excel
ファイルの名前を定義します。完全パスを入力するか、**[参照]**をクリックして既存のファイル名の場所に進み、選択することもできます。

入力 - 出力形式を定義します。以下のオプションが含まれます。

Excel - 出力を Excel 形式のファイルに送信します。

CSV - 出力をプレーンテキストのカンマ区切り値 (CSV)
ファイルに送信します。**[区切り文字]** では別の区切り文字を選択することもできます。

Excel を表示 - これをマークすると、エクスポートプロセス中に Excel
が現れます。クリアすると、Excel がバックグラウンドで隠れて実行します。

区切り文字 - CSV
ファイルへのエクスポート中に使用するセパレータ、または区切り文字を定義します。デフォルトはカンマ文字(,)です。

上書きモード - データが既存のファイルに送信されたときに発生する内容を定義します。

いいえ -
既存の測定結果データは上書きされません。既存の測定結果の新しい値は無視されます。完全に新規の測定結果のみが出力ファイルに追加されます。

はい - 既存の測定結果のデータが最新情報に上書きされます。

追加 -
既存データは新しい値で上書きされません。既存の測定結果の新データが追加されます。

複数のインスタンスをエクスポート -
実行中の要素の複数のインスタンスがエクスポートされるファイルに現れる順番を決定します。複数のインスタンスは、ループやその他の実行分岐のために要素が複数回実行された結果です。

位置順 -
複数インスタンスが測定ルーチンの上から下の位置を使用してエクスポートされます。

実行順 -
複数のインスタンスが最後に測定ルーチンが実行された際の実行順を基にエクスポートされます。例えば、実行中、分岐ステートメントの条件文がいくつかの測定結果をスキップすると、その間の測定結果もこのエクスポートで無視されます。

PC-DMIS 統計 - データをエクスポートするために PC-DMIS STATS/ON または TRACEFIELD コマンドが必要かどうかを決定します。

STATS/ON および STATS/OFF を使用 - これをマークすると、測定ルーチンで STATS/ON および STATS/OFF
コマンドの間に測定結果(または要素コントロールフレームの測定結果)コマンドを含める*必要があり*、含めない場合、ウィザードはデータを Excel
ファイルにエクスポートしません。このチェックボックスを外すと、すべての測定結果コマンドが Excel
ファイルにエクスポートされます。「統計データの追跡」の章を参照してください。

TRACEFIELD を使用 - これは、[STATS/ON および STATS/OFF を使用]
をマークした場合に選択可能になります。

ヘッダー - 測定ルーチンのヘッダーデータを出力ファイルに書き込む方法を決定します。

測定ルーチンの名前 -
これをマークすると、測定ルーチンの名前が出力ファイルに含まれます。

短縮 -
ファイル名が短縮された形式となり、完全なパスではなくファイル名のみが表示されます。

完全 - ファイル名は完全パスを含めて表示されます。

パーツ名 - これをマークすると、パーツ名が出力ファイルに含まれます。

改訂番号 - これをマークすると、改訂番号が出力ファイルに含まれます。

シリアル番号 - これをマークすると、シリアル番号が出力ファイルに含まれます。

統計カウント -
これをマークすると、トランザクションまたは実行の数が出力ファイルに含まれます。

日時 - これをマークすると、現在の日時が出力ファイルに含まれます。

測定結果 - 測定結果データを出力ファイルに表示する方法を決定します。

行 - 測定結果が横に並べられます。

列 - 測定結果が縦に並べられます。

ヘッダー開始行および列 -
ヘッダー情報の表示が開始する位置を定義します。2および2の値は下へ2行目、および右に2列目から開始することを意味します。

データ開始行および列 -
測定結果データ情報の表示が開始する位置を定義します。9および2の値は9行目、および2列目から開始することを意味します。

FCF を無視 - これをマークすると、PC-DMISは要素コントロールフレームコマンドを Excel ファイルに引渡しません。「要素コントロールフレームの使用」の章を参照してください。

単位 -
これをマークすると各測定結果で使用される測定単位がエクスポートに含まれます。例えば、角度の測定値は 度として DEG を示し、サイズの測定値はミリメートルとして MM を、インチとして IN を示します。

フィールドラベル -
出力でデータフィールドの隣のラベルがどのように表示されるかを決定します。

一度 -
ヘッダー情報の後、すべての測定結果がリストに表示される前にフィールドラベルが一度だけ現れます。これらは**[行]**または**[列]**設定に基づき、カラム見出しか行の見出しのいずれかです。

常時 - フィールドラベルは各測定結果の前で現れます。

すべてのフィールド -
[常時]をマークすると、このチェックボックスが選択可能になります。**[すべてのフィールド]**をマークするとすべてのフィールドが現れます。これには、測定結果、説明、要素、軸、セグメント、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、ボーナス、偏差、公差範囲外、偏差角度、基準要素のシフト効果、未使用の領域、シフト X、シフト Y、シフト Z、回転 X、回転 Y、および回転 Z が含まれます。

これをクリアすると、測定結果、説明、軸、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、偏差、および公差範囲外のラベルのみが現れます。

測定結果の間に空白の行/列を挿入 -
これをマークすると、各測定結果の後に空白の行が挿入されます。

監視なしでウィザード実行

人による介入なしにPCD2Excel ウィザードを実行するようにPC-DMISに指示することができます。当ウィザードのコンフィギュレーションの後に、EXTERNALCOMMANDをお客様の測定ルーチン内に挿入し、そのコマンドに「A」パラメータを付け加えて下さい。コマンドは以下のようになります:

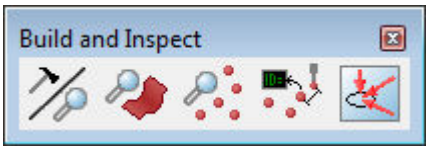
```
EXTERNALCOMMAND/DISPLAY ; C:\Program Files\WAI\PC-DMIS
V42\Wizards\PCD2EXCEL.EXE A
```

このコマンドは、無監視で実行するよう当ウィザードに指示します。

ウィザード ソース コードが入手可能

これらのウィザードは、Microsoft Visual Basic©、及び、PC-DMISの自動操作能力を用いて開発されました。これらの作成に用いられた、ソースコード、及び、プロジェクト ファイルは、お客様のPC-DMISインストレーションを含むディレクトリ内の、ウィザード サブディレクトリ内に含まれています。PC-DMISの能力拡大、または、ご希望のカスタムアプリケーション作成を行う場合には、お役に立つガイドとして、このソースコードを使用することが可能です。また、オリジナルアプリケーションに含まれていない、他の機能を実施するよう、ウィザードを強化することもできます。

ツールバーの構築および検査



ツールバーの構築および検査

ポータブル測定装置でパーツを測定する場合、このツールバーが使用されます。このツールバーの詳細については、「PC-DMISポータブル」ドキュメントの「構築及び検査ツールバー」トピックを参照してください。

QuickMeasure ツールバー

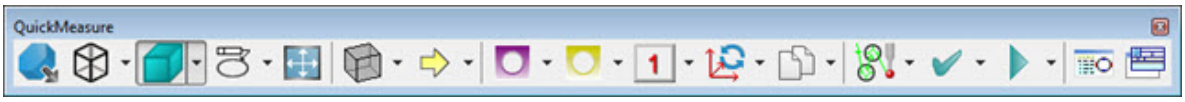
QuickMeasureツールバーは、モデル、ソフトウェアの様々なサポートされる構成の典型的な操作フローを構築します。ユーザは「**ビュー |ツールバー |QuickMeasure**」メニューからアクセスできます。

ツールバーは多くのボタンのためにドロップダウンメニューを使用します。PC-DMISはこれらのボタンで最後に選択されたオプションを保存し、次回**QuickMeasure**ツールバーがアクセスされるときに表示します。

必要に応じて、「**ビュー |ツールバー |カスタマイズ**」メニューオプションから他のツールバーにドロップダウンメニューを追加することができます。ツールバーをカスタマイズする方法については、「ユーザー･インタフェースのナビゲート」の章の「ツールバーのカスタマイズ」トピックを参照してください。

CMMにおいて

PC-DMISCMMの**QuickMeasure**ツールバーはCMM操作の一般的な操作フローのモデルを作成します。



CMMユーザー用QuickMeasure ツールバー

このツールバーの詳細については、PC- DMIS CMMドキュメントの「CMM QuickMeasure ツールバー」トピックを参照してください。

ポータブル機種には

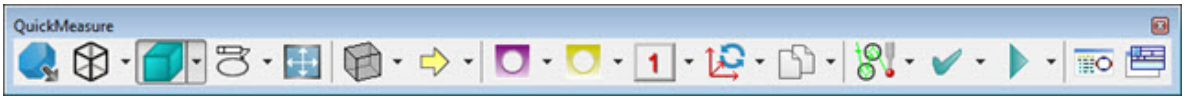
PC-DMISポータブルの**QuickMeasure**ツールバーはポータブル測定機の典型的な操作フローのモデルを作成します。このツールバーは、単にPC-DMISのバージョンがポータブル測定機に使用するように設定される場合のみに利用できます。

ポータブルユーザー用QuickMeasure ツールバー

このツールバーについて詳しくは、「PC-DMIS ポータブル」ドキュメントの「ポータブル QuickMeasure ツールバー」トピックを参照してください。

Visionには

PC- DMIS
Visionの**QuickMeasure**ツールバーはVision測定機の典型的な操作フローのモデルを作成します。このツールバーは、単にPC- DMISのバージョンが
Vision測定機に使用するように設定される場合のみに利用できます。



これはPC- DMIS
CMMドキュメントの**QuickMeasure**ツールバーと同じです。この**QuickMeasure**ツールバーの詳細については、 PC- DMIS CMMドキュメントの「CMM QuickMeasure
ツールバー」トピックを参照してください。

QuickCloudツールバー

QuickCloud ツールバー

QuickCloudツールバーはPC-
DMISがポータブルデバイス向けにライセンス供与および設定されているときにのみ使用できます。このツールバーはCOPの使用に最初から最後までの全ステップを完了するボタンを提供します。

このツールバーの詳細については、 QuickCloud
ツールバーの情報QuickCloudツールバー」トピックを参照してください。

注記: すべてのポイントクラウドツールバー機能について詳しくは、PC-
DMISレーザー文書の「ポイントクラウドツールバー」トピックを参照してください。